教会の始まり　　**使徒の働き 2:37～42**

１．聖霊と教会

世界中どのキリスト教会も教会の活動が始まった日があります。池聖書教会は 1966 年 5 月 1 日にアメリカから来たバーソルド宣教師夫妻によって始まりました。57 年前のことです。今月には同じ関西宣教区の和歌山の岩出みのりチャペルが始まります。プロテスタントのみならずカトリックであろうとギリシャ正教等の東方教会であろうと数えきれないぐらいキリスト教会が世界にはあります。それぞれに始まった日があるわけですがそもそもキリスト教会はいつ始まったものでしょうか？先週５月２８日はペンテコステ（聖霊降臨日）と言ってこの日に世界で最初の教会が始まりました。つまりペンテコステの日が全世界のすべての教会の創立記念日となります。では、教会は最初どのようにして始まったのでしょうか。そのことが今日の２章に書かれています。それを見てゆきましょう。

イエスが天にお帰りになった後、百二十人ほどの弟子たちが、エルサレムに集まって、聖霊が降るのを待って祈っていました。九日間祈り続けたあと、十日目、日曜日の朝９時ごろ、聖霊が弟子たち、ひとりひとりに天から降ってこられました。「ゴーッ」という風の音が街中に響き渡り、弟子たちひとりひとりの頭の上に炎が灯りました。百二十人のひとりびとりの頭の上で炎が燃えている、こんな光景は今までどこでも見られませんでした。これは、神が教会の誕生のために特別に用意されたもので、それには意味がありました。炎は聖霊を表わします。それが頭の上にあるのは、聖霊が天からのお方であることを意味しています。炎がすぐには消えてなくならず、ひとりひとりの上に留まったのは、聖霊がひとりひとりのうちにずうっと住んでくださることを表わしています。

さらに、この炎は「舌」でした。「舌」は英語で "tongue" と言い、「言語」「言葉」とも訳されます。日本語でも「舌を巻く」というと「言葉が出ない」という意味になり、「舌が回らない」というと「言葉がはっきりしない」という意味になります。しかし、聖霊が炎の舌となって弟子たちに降ったとき、弟子たちは「舌が回らない」どころか、神の素晴らしい救いについて語り出したのです。しかも、さまざまな国の言葉で、流暢に語ることができました。

ペンテコステの日、大勢の人々が外国からエルサレムに来ていました。西はローマや地中海の島クレテから、北は黒海近くのポントス、小アジアのフリュギア、パンフィリア、カパドキア、それにメソポタミアから、南はアラビア、エジプト、アフリカ大陸のリビアやクレネからの人々が来ていました。なのに、その誰もが、自分たちの国の言葉で神の言葉を聞きました。しかも、それを話しているのは、学問もなく、外国語を学んだこともない人たちでしたから、皆は、そのことにも驚きました。弟子たちは、九日間の祈りの間に、こっそり外国の言葉を勉強していたのでしょうか。外国語学部出身の方に聞いてみたいと思うのですがたった九日で、その土地の人も驚くほどに喋れるようになるでしょうか。このことは、聖霊によって起こりました。聖霊が炎の舌となって弟子たちに降り、弟子たちがさまざまな国の言葉で語り出したのは、神の言葉、イエス・キリストの救いの福音が、世界中のすべての人たちに宣べ伝えられるようになることを表わすものでした。これが教会の始まりの様子です。教会は最初から全世界に向けて福音が伝えられるように準備されていたのです。

このように、教会は聖霊によって生み出されました。教会は決して人間の力によって作られたものではありません。それは神のもの、イエス・キリストのもの、聖霊のものです。よく教会は建物ではなく、キリストを信じている者たちの集まりと言われます。その通りです。しかしだからと言って教会は建物ではないから建物のことはどうでも良いということにはなりません。教会は何よりも信じた者の群れのことです。だからこそ、次に主を証しし、神の栄光を表すためにどのように用いられるかということの中で建物としての教会の意味が出てくるのです。ですから、私たちはこの教会の人も建物も神のものとして大切にします。人も建物もイエス・キリストのものですから、教会に奉仕します。

２．聖霊と福音

聖霊は、信じる者に、神と人を愛する「愛」の力、真理を喜ぶ「喜び」の力、恐れを取り除く「平安」

の力、嫌なことをされてもそれをゆるす「寛容」の力、他の人に優しく接する「親切」の力、進んで人の善を願う「善意」の力、偽りやごまかしのない「誠実」の力、神と人の前にへりくだる「柔和」の力、誘惑に負けない「自制」の力（ガラテヤ 5:22-23）など、さまざまな力を与えてくださいますが、聖霊が臨んだ最初の日、ペンテコステには、弟子たちに福音を語る力を与えてくださいました。

「福音を語る」と言っても、それは、テレビのアナウンサーのように、明瞭な発音で話せれば良いというものではありません。「福音を語る」には、まず、福音が何であるかを正しく知り、理解していなければなりません。次に、この福音を伝えたいという情熱がなければなりません。さらに、福音を語る人自身がそれを信じ、その恵みの中に生かされていなくてはなりません。それらすべてが福音を語る力であり、聖霊がその力を与えてくださるのです。

ペテロは、集まってきた大勢の人々に、イエス・キリストの十字架と復活のことを聖書を引用しながら筋道を立てて正しく語りました。この知恵は聖霊からのものでした。ペテロは、イエスを十字架につけたユダヤの指導者たちの本拠地、エルサレムで、「ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」（使徒 2:36）と語っています。50 日ほど以前には人々を恐れ「イエスなどという人は知らない」と言ったペテロとはまるで別人のようです。ペテロは、もう、イエスを十字架につけた人々を恐れてはいません。この勇気もまた聖霊から来たものでした。ペテロは聖霊によって大胆に福音を語る力を授けられたのです。

ペテロが聖霊によって語ったとき、人々は心を刺されました。ペテロの言葉を聞いた人々の多くは、イエスを十字架につけようと企んだわけでもなく、イエスを憎んでひどいことをしたわけでもありません。しかし、この人たちは、福音を聞くうちに、イエスが救い主として自分たちのところに来られたのに、そのお方を信じ、受け入れることをしなかった罪に気付きました。殺人は、死刑を宣告されるほどの大きな犯罪ですが、神の御子を殺した罪はどれほど大きなものとされるのでしょうか。人々は、たとえ、直接イエスを手にかけなかったとしても、心の中でその罪に関わったことに気付いたのです。自分に聖書の示す罪があることを認めるなら、この自分もイエスを十字架につけた者であることが分かるのです。ここで聖霊の別の働きがあります。聖霊は福音を聞いて、理解する力を与えたということです。私たちも、私を愛し、その命さえも差し出してくださったお方に心を向けることなく、その言葉に耳を傾けてきませんでした。私たちもまた、福音を聞くことによって、はじめてそのことに気付かされ悔い改めと信仰に導かれたのです。つまり福音を語る力を与えるのが聖霊であり、聞いて理解する力を与えてくださるのも聖霊なのです。

福音はたんに生活に役に立つ話でも、心温まる話でも、元気の出る話でもありません。それは、私たちを神との生きた関係に引き戻すものです。聖霊によって語られる福音は、それを聞く者を信仰に導き、その人の思いを、心を、生活を、人生を根底から変えていくのです。私たちも、そのように他の人々に福音を知らせることができる聖霊の力をいただきたいと、心から願います。

３．聖霊と洗礼（バプテスマ）

ペテロが人々に「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」（使徒 2:38）と勧めると、人々は自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを信じてバプテスマを受けました。聖書には「彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。」（使徒 2:41）とあります。

日曜日の礼拝はすべての人に開かれています。すべての人は、おひとりの神によって造られたのですから、どの人も教会で造り主である神を賛美し、感謝する礼拝を捧げることができます。けれども、イエス・キリストを信じる者はイエス・キリストの贖いを覚え、罪の赦しの喜びをいただいて神を礼拝することができます。礼拝で、イエス・キリストを「神の小羊」と呼んで礼拝するのは、私たちの罪のために死なれた神の御子の贖いを賛美するためです。教会に集い、共に賛美を歌い、祈りに心を合わせ、神の言葉

を聞いているおひとりびとりが一日も早くイエス・キリストに結ばれ、神を創造者としてだけでなく、贖い主として礼拝する者になっていただきたいと思います。そのことは、神が一番望んでおられることです。神は霊とまことをもって礼拝する者を求めておられるのです。

私たちは信仰によってキリストに結ばれます。信仰とは神の恵みに対する人間の応答です。神が私を愛し、私も神を愛する。神が私を信頼し、私も神を信頼する。神との関係は常に相互の関係です。人間の側の決心、決断、応答がなければ神との関係は相互のものにはなりません。神に信頼し、キリストに従っていく決断は大切なものであり、決心したことを生涯にわたって持続していくことはもっと大切なことです。しかし、私たちは、たとえそれが正しいと分かっていても、困難が予想されると、楽なほうを選んでしまいます。きのう決心したことも、きょうはもう守れなくなってしまっているということがあります。ですから、信仰の決断においても、私たちは神の助けが必要です。そして、それを助け、支えてくださるのが聖霊であり、聖霊はバプテスマによって、私たちの信仰に保証や確信を与えてくださるのです。

聖書は「イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」と約束しています。信仰の生活は、自分の力で神を喜ばせようとするものではありません。人間の力では、神に喜んでいただくことはできません。聖霊によってキリストに結ばれ、教会の一員となることによって、私たちは、罪が赦されるだけでなく、罪の性質からもきよめられ、造り変えられていきます。これこそ私たちの最高の幸い、この世のどこでも得られない神を信じる者の人生の宝です。バプテスマは、聖霊によって新しく生まれ変わったこと、これからも変えられていくことの「しるし」です。「しるし」だと言っても、それは砂に書いた文字のようにやがて消えていくものではありません。バプテスマは聖霊によって信じるものの霊に刻み込まれ、人を新しい命に生かし続けます。教会は聖霊によって生まれました。同じように、教会に属するメンバーもまた、聖霊により、バプテスマによって母なる教会のうちに生まれるのです。

「悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」最初のペンテコステの日、この言葉に答えた三千人はバプテスマと共に聖霊を受けました。イエス・キリストを私の救い主として信じている者はこの人たちと同じところに立っています。そこから本当の意味で教会生活が始まります。続く信仰生活の中で私たちの人生に働く聖霊の恵みと力とを体験させていただこうではありませんか。祈ります。